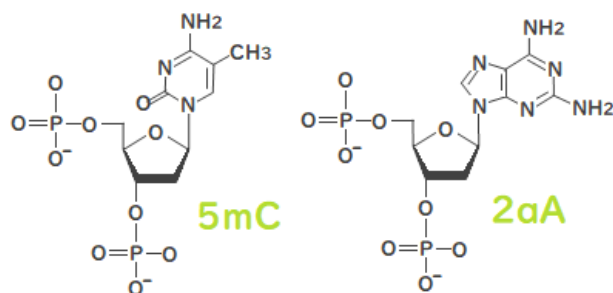


Hypercool™
Technology™



Hypercool テクノロジー™は、Tm 値上昇試薬『5-methyl dC』『2-amino dA』を配列内に挿入することで Tm 値を調節し、短い DNA・RNA の検出を可能にする技術です。

▶Hypercool テクノロジー™の特長

- ・ Tm 値上昇塩基を用いて、従来よりもプライマー・プローブや増幅サイズを短くできます。
- ・ 各種オリゴ DNA に導入することができます。特にダブルラベルプローブでは、汎用性の高い蛍光およびクエンチャーをご選択でき、ほぼすべての機器に適用可能。
- ・ 感度がいまひとつ、ターゲットが AT リッチ、ターゲットの領域が狭い、プローブのジェノタイピングの分解能が低い…などでお困りの場合、性能向上や改善が期待されます。
- ・ SNP Genotyping や Rare mutation 解析のパフォーマンス向上、FFPE サンプルの遺伝子発現定量アッセイの向上、血中循環遊離 DNA 中の腫瘍由来 融合遺伝子の検出、血中循環 腫瘍由来メチル化 DNA 定量アッセイの可能性拡大などに大変有用です。

▶Hypercool-qMSP PP セット™の有効性

- ・ 従来方法では、バイサルファイト処理後は dU リッチなテンプレートなることから、Tm 値の低下により設計がうまく行えないことがありました。Hypercool テクノロジー™により dU の相補鎖の dA に 2-amino dA を導入することにより、dU により低下した Tm 値を上昇させ、条件の整った設計を行うことができます。
- ・ 非メチル化テンプレートに対するクロス反応が問題となることがありますが、Hypercool テクノロジー™では、バイサルファイト処理で変換されない CpG の dC に 5-methyl dC を導入することにより、特異性を向上させ、非メチル化 DNA テンプレートとのミスアニーリングを最小限に抑えることができます。
- ・ 断片化 DNA が多いサンプルの場合、感度が低下することがありますが、Hypercool テクノロジー™では、プライマー・プローブ内の dC や dA に 5-methyl dC や 2-amino dA を導入し、プライマー・プローブ長を短くすることで、アンプリコンサイズがより短い設計が可能となり、断片化した DNA に対する検出感度が上がります。

日本遺伝子研究所は、感度および信頼性を向上させる Hypercool テクノロジー™によって、皆さまの研究をサポートいたします。

〈Primer & Probe カスタム合成〉

⇒[詳細はこちら](#)

〈製品〉

検量線スタンダード付プライマー・プローブセット(House Keeping Gene 10 種)

⇒[詳細はこちら](#)

Hypercool-qMSP PP セット™

お問い合わせ

株式会社日本遺伝子研究所 合成事業部

oligo@ngri.co.jp

TEL : 022-388-9748 (直通) FAX : 022-388-9740 まで

〈受託サービス〉

Hypercool Primer&Probe™ デザインサービス

血漿/血清中 cell-free RNA/DNA 定量用デザインサービス

FFPE 組織中 RNA/DNA 定量用デザインサービス

⇒[詳細はこちら](#)

お問い合わせ

application@ngri.co.jp

株式会社日本遺伝子研究所 アプリラボ

TEL : 022-388-9746 (直通) FAX : 022-388-9740 まで